

医療機器 無償提供へ

「コロナ 緊急 事態」

大田・日東工器が開発
たん吸引器500台



「社会への貢献は第一の経営方針。社員の励みにもなっている」と話す小形社長（品川区で

新型コロナウイルスの影響で病院での医療器材不足が指摘される中、機械工具メーカー「日東工器」（大田区仲池上）は、同社が開発した携帯型たん吸引器「キュータム」五百台を、東京医科歯科大病院（文京区）など医療機関への無償提供すると発表した。肺炎では呼吸困難のほか、たんのつまりなどの症状がある。

キュータムは、重さ約五キの一般的なたん吸引器に比べ、約一・二キと軽量。入院中の子どもが散歩などで外出する際、親が携帯して使えるようにと開発された。乾電池とコンセントの電源のどちらも利用でき、

災害時など電源の確保が難しい環境でも使えるのが特徴だ。

日東工器は取引のある城南信用金庫（品川区）に、医療機関への無償提供を相談した。城南信金は、全国に行き渡るようにと信用金庫が連携する「よい仕事おこしネットワーク」を紹介した。

二〇一八年、北海道全域が停電した胆振東部地震の際は、苫小牧地方の救急病院六カ所にキュータム約八十台と乾電池を届け、たん吸引の必要な患者の治療を助けた。

小形明誠社長は「自社の技術が少しでもコロナウイルスの治療をする医療現場で役立てば、社員の励みにもなる」と話している。

（市川千晴）

※東京新聞の使用許諾済